

# 水源地、葉きよう散乱

## 35年前北部訓練場 中村さん撮影

【北部】東村ノグチゲラ保護監視員の中村保さん(70)＝名護市＝が国頭村の普久川ダム建設時の約35年前、ダム湖近くに転がっている米軍



中村保さん

仕様の発煙手投げ弾や葉きようの写真を撮影



100発ほどある葉きよう(中村保さん提供)

していたことを明らかにした。東村ノグチゲラ保護条例の制定などに携わってきた中村さん。「やんばるの森、水源地が訓練場になっているのはもう許せない。全面撤去すべきだ」。積年の思いを語った。

撮影場所は現在県道2号沿いにある普久川ダムの展望台近くの米軍北部訓練場内。発煙手投げ弾や100発ほどの葉きようなどが写っている。テントで迫撃砲や自動式拳銃を手入れする米兵の姿を撮影した写真もあった。

当時東村役場職員で写真の公開は考えていなかった。だが、1999年8月に米軍ヘリが役場近くの民間地グラウンドに不時着する様子を目撃。名護市辺野古や東村高江の新基地建設計画を政府が「粛々」と進

める現状などに「許せない」との思いが募っていた。

普久川ダムを管理する沖縄総合事務局北部ダム統合管理事務所によると過去に環境基準を超える水質悪化などは確認されていない。

ただ、中村さんは「東京の水源地だったらどうなんだ」と指摘する。やんばるの森は世界自然遺産の候補にも挙がるが、国内法が及

ばない北部訓練場は登録地域から外れる見込み。